

総合的な学習の時間での活用

千歳市立千歳小学校

小学校 第3学年	単元名 「バリアフリーについて考えよう」 教材名 「思いやり」(「おもてなしハンドブック 小学校3・4年」P6-9)
---------------------	---

1 単元のねらい

お年寄りや体が不自由な方との交流を通して、様々な人たちと互いに支え合い生活していくことの大切さに気づき、思いやりの気持ちを持ち、その後の生活に生かそうとする。

2 単元について

本単元は、足が不自由で、車いす生活をされている方を学校に招き、実際に話を聞いたり、車いすに乗って体験したりする活動を位置付けることにより、「自分たちには、何ができるのか」について考え、身の回りの様々な方々と主体的にかかわろうとする実践的な態度を育てる単元である。「おもてなしハンドブック」を自分たちの身の回りにいる人々との接し方について考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開 【課題の設定】

過程	□主な活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<input type="checkbox"/> 車いすを提示し、誰が、どんなときに使うものか考える。 ・骨折など歩けないようなけがをしたとき。 ・自分で歩けないお年寄りが移動するとき。 <input type="checkbox"/> 自分が車いすを使う生活になったことを、想像する。 ・大変そうだ。 ・一人では無理だよね。	 <p>＜車いすの写真＞</p> ◆体が不自由な方の思いを捉えることができるよう、車いすを提示し、考えさせる。
展開	<input type="checkbox"/> 車いす体験を行い、感想を交流する。 ・段差があって、行きたいところに行けない。 ・車いすが重たい。 ・車いすの方のことを考えた建物のづくりが必要だ。 <input type="checkbox"/> 車いすで生活している方が来たときにどのような話を聞きたいか考える。 ・生活しやすくなるためにどのようなことが必要か、聞いてみたい。 ・私たちにできることは何か、聞いてみたい。 <input type="checkbox"/> 全体で交流し、それぞれの児童が学習課題を設定する。	◇様々な人たちと互いに支え

	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが過ごしやすく生活するためにどのような工夫が必要かを学習したい。 ・体が不自由な方のためにどのような取組が行われているか調べてみたい。 	合い生活していくことの大切さに気づき、自らの学習課題を見いだしてる。
終末	<input type="checkbox"/> 車いすで生活している方との交流で大切にすることを確認する。(「おもてなしハンドブック」P6)を活用して考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉や行動で表すこと。 ・どうすれば相手のためになるか考えること。 <input type="checkbox"/> 車いすで生活している方との交流への見通しをもつ。	 <p>＜「おもてなしハンドブック」P6＞</p>

4 授業の記録

- (1) 体験活動を行ったあとの子どもの感想
- ・思っていた以上に車いすが重く、車いすで生活している方々の大変さを実感した。
 - ・車いすの人を見かけたら、進んで何か手伝いをしたいと思う。
 - ・今まで、あまり気にしていなかった車椅子の方々について、改めて考えることができた。
- (2) 「おもてなしハンドブック」P7-9 への記述
- ・相手の気持ちを理解して言葉や行動で表すことが大切だと思う。
 - ・自分が何をすることが、相手のためになっているのか考えて声を掛けることが大切だと思う。
 - ・困っている人がいたら、声を掛ける。

5 ノート等

思いやり

思いやりの心を伝えましょう

思いやりの心を伝えるには

言葉で 思いやりの心を伝えよう

行動で 思いやりの心を伝えよう



＜「おもてなしハンドブック」P6＞

＜車いす体験の様子＞

実践のポイント

- 様々な人と助け合って生活していこうとする態度が身に付くよう、終末で「おもてなしハンドブック」を活用し、思いやりのある行動について考える機会を位置付ける。
- 生活しやすい環境づくりに関する学習課題を設定することができるよう、車いす体験を行い、体験を通して考えたことを交流する機会を位置付ける。

社会科での活用

函館市立中の沢小学校

**小学校
第3学年**

単元名 「わたしたちの市の様子」

資料名 「私たちのふるさと」（「おもてなしハンドブック」小学校3・4年 P10-12）

1 単元の目標

自分たちの市の特色ある地形や土地利用、交通の様子、公共施設の位置などについて調べ、地域の様子や人々の暮らしは場所によって違いがあることをとらえる。

2 単元について

本単元は、自分たちの住んでいる身近な地域や市の地形の様子、土地の使われ方、市街地の広がり、主な公共施設のある場所などについて調べることにより、自分たちの住んでいる地域や市の、場所による違いについて考えることができる単元である。

「おもてなしハンドブック」を北海道や自分たちの地域のよさなどについて考える場面で活用することにより、相手に伝えたい町の自慢を捉えることができるようにする。

3 本時の展開

過程	□主な活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<input type="checkbox"/> 前時の学習を思い起こし、函館市の特色をあげる。 ・海産物がたくさんとれる。 ・市電が走っている。空港がある。 <input type="checkbox"/> 本時の課題を確認する。 私たちの町を訪れる人に、じまんできる町のよさって何だろう。	 <p style="text-align: center;"><授業の様子></p>
展開	<input type="checkbox"/> 市の観光ポスターを見て、気付いたことを発表する。 ・景色がきれいだ。 ・たくさんの人に見てほしい。 ・イルミネーションを見たことがある。 <input type="checkbox"/> 「おもてなしハンドブック」P10を開き、北海道を訪れる多くの観光客に伝えたいことを書き込む。 ・昔に建てられた建物がたくさん残っている。 ・案内表示や観光ガイドがあって、分かりやすい。 <input type="checkbox"/> ポスターにどのような内容を取り上げるのか、グループで話し合う。	◆本時の学習の見通しをもつことができるよう、函館市の観光ポスターを提示する。  <p style="text-align: center;"><おもてなしハンドブック P10></p>

<ul style="list-style-type: none"> 初めて来たお客さんにぜひお知らせしたい内容を作成しよう。 みんなの意見をもとに、説明の仕方を工夫しよう <input type="checkbox"/> 書き込んだ内容を発表し、伝えたい内容について視点ごとに整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 市の様子・・・海や函館山がある。 市の特色・・・夜景がきれいで、ロープウェイがある。 市の特産物・・・とれたての魚をすぐ食べられる。 <input type="checkbox"/> 本時のまとめ	◆自分たちの市のよさがたくさんあることに気付くよう、伝え合う時間を確保する。 ◇市の様子や特色、特産物などを理解している。 （発言、ワークシート）【理】
わたしたちのまちには、豊かな自然があり、自然を生かした町づくりについて紹介したい。	
終末 <input type="checkbox"/> ポスターのレイアウトなどを構想する。	

4 授業の記録

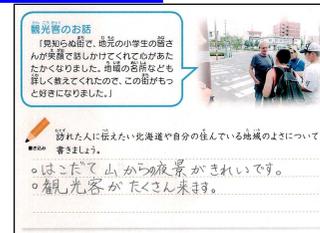
(1) 「おもてなしハンドブック」P10への記述

- ・夜に車に乗っていると、イルミネーションやきれいな建物がいっぱいあるから、大好きです。
- ・函館には古くからの教会やお寺がたくさんあり、歴史があります。
- ・来年には新幹線がくることが決まっています。みんなとても楽しみにしています。

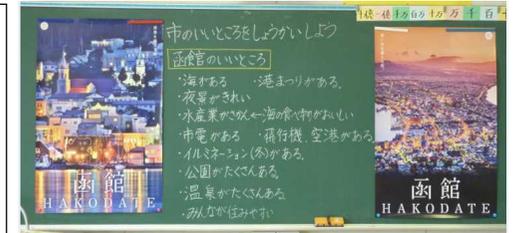
(2) 本時の感想

- ・今まで知らなかった函館のいいところがたくさん分かって、すてきな街だなと思った。
- ・夜景や温泉を調べてとても楽しかった。次は昔の函館のことについてポスターにまとめた。
- ・ポスターを制作することで、調べた内容をたくさんの人に知ってもらいたいと思った。

5 板書、ノート等



<おもてなしハンドブックへの記述内容>



<提示したポスターと板書>

実践のポイント

- 地域のよさを理解し、素晴らしさを実感できるよう、展開で「おもてなしハンドブック」を活用し、ふるさとのよさを見つめ直す機会を位置付ける。
- 地域の様子や人々の暮らしは場所によって違いがあることを捉えることができるよう、土地の様子を地理的な条件などを関連付けて考える場面を位置付ける。

道徳の時間での活用

士別市立士別南小学校

小学校
第3学年

主題名 相手を思いやり親切に **内容項目B**〔親切、思いやり〕
教材名 「思いやりの心とは、どのような心でしょう」(「わたしたちの道徳」P62-63)
 「心と心のあく手」(「わたしたちの道徳 小学校3・4年」P66-69)
 「思いやり」(「おもてなしハンドブック」P6-9)

1 本時のねらい

相手のことを思いやり、自ら進んで親切にしようとする態度を育てる。

2 教材について

本教材は、子どもたちが大切だと感じている「思いやり」は単に「優しくする」ことだけではなく、相手の心を受け止めて、どうすれば相手のためになるのか考える、「心のやりとり」であることに目を向けさせることのできる教材である。

- ① 僕は、家に向かう途中の坂で重そうな荷物を持ったお年寄りに出会い、手伝いをするために声を掛けたが断られた。
 - ② 家に帰ってから母から、そのお年寄りは歩く練習をしていると聞くことを聞かされた。
 - ③ 僕は、再びそのお年寄りに会ったが、今度は見守ることになった。
 - ④ お年寄りは、自分の力で坂を上って家に着くことができ、満足している様子であった。
- お年寄りのためにはどうしたらよいかと考える僕と自分自身を重ね合わせ、その気持ちや思いを感じ取らせるようにする。
- 「おもてなしハンドブック」を思いやりの心の伝え方などについて考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等(◎中心的な発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 「思いやりの心とは、どのような心でしょう」(「わたしたちの道徳」P62-63)を読んで、「思いやりの心」とはどのような心が確かめましょう。	◆「思いやり」に関する具体的な行為について想起する。
展開前半	○ 「心と心のあく手」(「私たちの道徳」P66-69)を読んで考えましょう。 ○ 断られたときの「ぼく」はどのように思ったでしょう。 ・せっかくながら声をかけたのに断られて悲しい。 ・声を掛けて損をした。 ○ 数日後、おばあさんに会った「ぼく」はどんな気持ちで後ろをついていったのだろう。 ・この前よりも足取りが重そうだ、放っておけない。 ・また断られるのは嫌だけど…。	◆児童の発達の段階に応じて、教師が範読する。  <「わたしたちの道徳」P67> ◆キーワードとなる言葉について確認しながら進める。

	◎ おばあさんの笑顔を見て、なぜ「ぼく」の心はぱっと明るくなったのだろう。 ・おばあさんの笑顔が見られてうれしくなったから。 ・そっとついて行ってよかったと思ったから。	
展開後半	○ 「おもてなしハンドブック」P8を開き、「学校のろう下でとなりのクラスの友だちが泣いている時」自分ならどうするかを書きましょう。 ・大丈夫と声をかける。 ・見守る。 ○ 書き込んだことを発表し合い、友達の「思いやり」の伝え方を交流する。 ・笑顔で伝えることが大切だ。 ・行動で示すことが大切だ。	 <「おもてなしハンドブック」P8> ◇相手の気持ちになって自分のすべきことを考えている。(発言、記述内容)
終末	○ 先生の話をお聞きしましょう。	◆道徳的实践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話をを行う。

4 授業の記録

- (1) 中心的な発問に対する子どもたちの反応
 - ・おばあさんのことを心配したり、ついて行ったりしてよかったから。
 - ・おばあさんを見守ってきて、笑顔が見られてよかったと思ったから。
- (2) 「おもてなしハンドブック」P8への記述
 - ・大丈夫と声をかけてそれでも悲しそうだったらなぐさめる。
 - ・どうして失敗したかを聞いて、聞いてほしくない失敗だったら見守る。

5 板書、ノート等



<「おもてなしハンドブック」への記述内容>

<効果的に挿絵を活用した板書>

実践のポイント

- 思いやりについての考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常生活における行動を考え、交流する機会を位置付ける。
- 自ら進んで親切にしようとする態度を育てることができるよう、相手のことを考え見守るという行為を選択した主人公の気持ちについて考える機会を位置付ける。

特別活動での活用

中富良野町立旭中小学校

**小学校
第4学年**

題材名 「正しいあいさつと礼儀」
教材名 「あいさつ・れいぎ」（「おもてなしハンドブック 小学校3・4年」P2-5）

1 題材の目標

挨拶の目的や、気持ちのよい挨拶について考えるとともに、進んで挨拶しようとする態度を育てる。

2 題材について

本題材は、自分たちの挨拶の様子を撮影した映像を視聴したり、心の変化を具象化する開発教材「こころの信号機」を使った活動をしたりすることによって、子どもの挨拶への問題意識を高めるようにする題材である。

「おもてなしハンドブック」を日常の挨拶や礼儀などについて振り返る場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	□主な活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
事前の活動	□ 児童会や学級の係で行っている「あいさつ運動」について話し合う。	
本時の活動	<p>導入</p> <p>□ 挨拶の必要性について考え交流する。 ・遊ぶきっかけをつかむため。 ・いなや気分にならないため。</p> <p>□ 本時の課題を確認する。 気持ちのよいあいさつについて考えよう。</p>	
展開	<p>□ 職員室での挨拶の様子を撮影した映像を視聴し、感想を交流する。 ・声が小さい。 ・おじぎをしない人もいた。</p> <p>□ 「気持ちのよいあいさつをしましょう」（「おもてなしハンドブック」P2）を読み、日常の自分自身の挨拶について振り返って記入する。</p> <p>□ 「笑顔の輪を広げましょう」（「おもてなしハンドブック」P3）を読み、挨拶の意義について確認する。 ・挨拶をすると気持ちよく1日をすごせるね。 ・挨拶は人を笑顔にするね。</p> <p>□ 挨拶によって、「こころの信号機」がどのように変化するかを考える。 ・挨拶の仕方によって信号機の色が変わるね。 ・心のこもった挨拶をされると青信号になるね。</p>	<p>◆職員室への挨拶の様子をビデオで視聴する。楽しい体験だが、声を上げずに自分の態度や動作をじっくり観察させる。</p>  <p>＜「おもてなしハンドブック」P3＞</p> <p>◆友だち同士でも、心の動きに焦点を当てながら、照れずに活動させる。</p>

	□ 「こころの信号機」が青になるような挨拶を友だち同士で行う。	◆意図的によい挨拶と悪い挨拶を例示して考えさせる。
終末	<p>□ 友だち同士で挨拶した感想を交流する。 ・よい挨拶をすると、話しやすくなったり、気持ちよくなったりすることが分かった。 ・笑顔で挨拶をすると友達も笑顔になった。</p> <p>□ 日常の挨拶について、今後実践することについて決める。</p>	◇相手にとって気持ちのよい挨拶とはどのようなものかを考え、実践しようとしているか。 (発言、記述内容)
事後の活動	□ 各学期や校外学習の振り返り等において、「おもてなしハンドブック」裏表紙のめあてに基づく自己評価を行う。	◆自己評価に対する励ましや助言などを通して、道徳的实践に向けた意欲を高め、次のめあてや具体的な見通しをもつことができるようにする。

4 授業の記録

(1) 「おもてなしハンドブック」P3への記述

- ・笑顔で挨拶をすることで友達は笑顔にできることが分かりました。
- ・目を合わせなかったり、ため息したりしながら挨拶すると、相手のこころの信号を青から赤へ変えてしまうことが分かりました。

(2) 「日常のあいさつについて、今後実践すること」に対する子どもたちの反応

- ・笑顔で挨拶するなど、人の気持ちをよくする挨拶を続けていきたいです。
- ・これからは自分から進んで挨拶したいと思います。

5 板書、ノート等



あいさつをされて笑顔になったときのことを書きましょう。

あいさつをする時、とても話しやすくなり、気持ちよくなるのがわかった。これからは気持ちのよいあいさつを続けたいです。

＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞

①めあて 気持ちのよいあいさつについて考えよう。

②なにをして考えよう おもてなしハンドブック ビデオ 心の信号機

③やってみよう

ビデオ→声が小さい。おじぎしない人もいた。

おもてなしハンドブック→あいさつは、一日を気持ちよく過ごすためにする。

こころの信号機→笑顔であいさつすると相手の信号機を青にできる。

④まとめ

笑顔であいさつをすると相手も笑顔になることが分かった。

＜児童の思考の流れに沿った板書＞

実践のポイント

- 挨拶の意義や大切さについての考えを深めることができるよう、展開で「おもてなしハンドブック」を活用し、書き込みを活用して振り返る活動を位置付ける。
- 進んで挨拶しようとする態度を育てることができるよう、「こころの信号機」などを活用して、挨拶された時の気持ちを客観的に把握できるようにする。

道徳の時間での活用

根室市立北斗小学校

小学校
第4学年

主題名 郷土を大切にしようとする態度 内容項目C〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕
教材名 「ホタルかがやく町、沼田」(北海道版道徳教材「はあと・ふる2 小学校用」⑥)
「私たちのふるさと」(「おもてなしハンドブック 小学校3・4年」P10-12)

1 本時のねらい

我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、伝統と文化を守ろうとする態度を育てる。

2 教材について

本教材は、昔のようにホタルが住めるきれいな自然を取り戻したいという願いのもと、ホタルの里づくりに取り組んだ沼田町の人々の郷土を愛する真剣な思いに気付かせることのできる教材である。

- ① 家庭から出る排水や農薬のために川が汚れ、ホタルの姿が見られなくなった。
- ② 沼田町の人々には、昔のようにホタルが住めるきれいな自然を取り戻したいという願いがふくらんでいった。
- ③ その願いの実現に人々が立ち上がり、ホタルの里づくりが始まった。
- ④ さらには、人々の清潔な町づくりに発展し、自然を取り戻していった。

「おもてなしハンドブック」をふるさとのよさを振り返る場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等 (◎中心発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 「おもてなしハンドブック」P10 に、自分の住んでいる地域のよさについて書き込みましょう。 ・豊かな自然がある。 ・地域の伝統的なお祭りを守り続けている。 ○ 沼田町やホタルの話を書く。	◆ ふるさとのよさを伝えよう 北海道の雄大な自然は、世界的に著名です。そのため、世界中から北海道に多くの観光客が訪れています。北海道を訪れる人々に会話をすすめる場面では、北海道のよさを伝えていく必要があります。 観光客のお話 「未知の地で、美しい自然の風景が素晴らしくて感動しました。北海道の自然を詳しく教えてくれたので、この絵がもっと好きになりました。」 
展開前半	○ 「ホタルかがやく町、沼田」を範読する。 ○ 親子は、飛び交うホタルを見てどう感じているでしょうか。 ・すごくきれい。 ・空いっぱいにかがやく星のよう。 ○ ホタルの姿が見られなくなったとき、沼田町の人々はどう考えたでしょうか。 ・昔のようにホタルが飛び交う町にしたい。 ・ホタルの里にしてきれいな町を取り戻したい。 ○ ホタルの里づくりのために、沼田町の人々はどんな取組をしたでしょうか。 ・ゴミや空き缶を拾ってきれいな町にした。 ・農薬が川に流れでないようにした。 ◎ 「お母さん、きれいだねえ！」「来年も、こんなにたくさんホタル飛ぶかなあ？」という親子の言葉を聞いたとき、沼田町の人々はどう考えたでしょうか。	◆ 資料の世界に浸ることができるよう、イメージをもたせながら範読する。  ＜沼田町の人々の作業の様子＞ ◆ 沼田町の人々の取組を確認し、ホタルの里づくりに対する住民の思いに気付くことができるよう、促す。 ◆ 人々の気持ちを想像させるよう、作業をしている様子やホタルの里の写真を提示する。

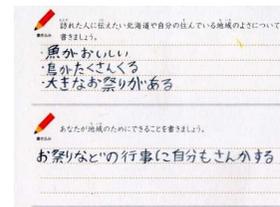
展開後半	・作業は大変だったけど、ホタルを見て喜んでくれてよかった。 ・これからは、いつまでもホタルが見られる町にしていきたいな。 ○ 自分たちが地域のためにできることを考えて、「おもてなしハンドブック」P10 に書き込む。 ・根室のよいところを調べて町の人に知らせていく。 ・お祭りなどの伝統行事に参加したり、よそから来た人たちに喜んでもらえるように掃除したりしたい。	◇ふるさとをよりよくするために自分たちにできることに気付いている。(発言、記述内容)
終末	○ 私たちが住む地域の伝統的なお祭りを守るために活動している人のお話を聞く。 ・昔の人たちの思いを受け継いでいる。 ・地域の行事に積極的に参加していきたい。	◆ねらいに迫ることができるよう、外部人材を活用したメッセージビデオを作成し視聴する。

4 授業の記録

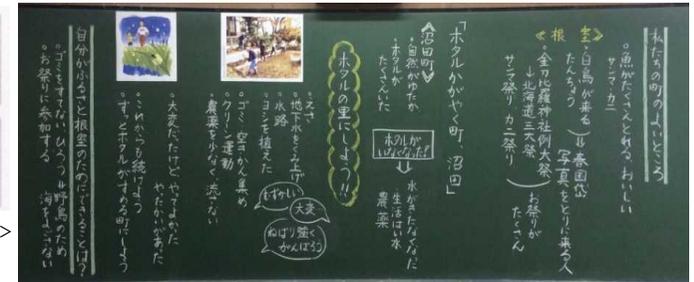
(1) 「おもてなしハンドブック」P10 への記述

- ① **自分が住んでいる地域のよさ**
 - ・さんまを代表としたおいしい魚がたくさんとれる。
 - ・白鳥や鶴などの野鳥がたくさんいて、写真家の人が集まる景色がある。
 - ・神社まつりや港まつり、さんまやかにまつりもある。
- ② **あなたが地域のためにできること**
 - ・自分も地域のお祭りに参加して、伝統を守っていきたい。
 - ・ゴミを捨てないようにして、これからも野鳥がたくさん来るきれいな町にしていきたい。
 - ・自分の町のことをたくさんの人に知らせたい。

5 板書、ノート等



＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞



＜思考の流れに沿ってまとめられた板書＞

実践のポイント

- ふるさとのよさについて考えを深めることができるよう、導入と展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、ふるさとのためにできることを書く活動を位置付ける。
- ふるさとの伝統や文化を守るという態度を育てることができるよう、地域の方からのメッセージビデオの視聴など、地域社会との連携を図る。

道徳の時間での活用

室蘭市立本室蘭小学校

小学校
第4学年

主題名 真心をもって 内容項目B〔礼儀〕
教材名 「礼ぎで通い合う心」（「わたしたちの道徳 小学校3・4年」P56）
「あいさつ・礼ぎ」（「おもてなしハンドブック 小学校3・4年」P2-3）

1 本時のねらい

礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする態度を育てる。

2 教材について

本教材は、児童が日常生活を振り返って、礼儀の形として知っていることなどを書けるようになっており、それらがどのような気持ちから形となって表れたのかを考えられるように工夫されている教材である。

- ① 相手を大切に思う気持ちを込めた挨拶
- ② 相手を大切に思う気持ちを込めた言葉遣い
- ③ 相手を大切に思う気持ちを込めた振る舞い
- ④ 挨拶、言葉遣い、振る舞いなど心がけてみようと思う礼儀のチェックシート

「おもてなしハンドブック」を挨拶の大切さなどについて考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

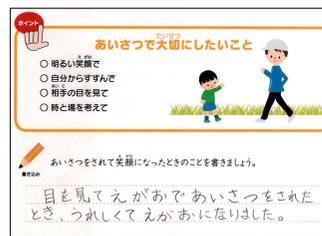
過程	○発問等（◎中心発問） ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 「おもてなしハンドブック」のP2に、挨拶の時どんなことに心がけているかを書いてみよう。 ・相手の目を見るようにしている。 ・大きな声で挨拶している。	 ＜授業の様子＞
展開前半	○ 「わたしたちの道徳」のP56「こんにちは」の仕方によって、どんな気持ちになるかを考えてみよう。 ・返事が返ってこない寂しい。 ・声が聞こえないとすっきりしない。 ○ グループで、最高にうれしい挨拶を考えよう。 ※友達を相手に、考えた挨拶を実践する。 (1) 行ってきます（お家の人へ） (2) おはよう（友達へ） (3) さようなら（先生へ） (4) ありがとうございます（地域の人へ）	◆指導者が悪い例を演じ、そのときの気持ちを発表させる。（指導者と子どもで役割演技） ◆グループ毎の課題に基づき、どのように挨拶したら最高にうれしくなるか、体験を通して実践的に考える。 ◆単に言い方だけでなく、気持ちも考えるように指導する。

	◎ うれしい挨拶とは、どのような挨拶だろう。 ・丁寧な挨拶や元気な挨拶 ・相手を思う気持ちが伝わってくる挨拶	◇相手や場面に応じた挨拶を考えている。（発言）
展開後半	○ 「おもてなしハンドブック」のP3に、「あいさつをされて笑顔になったときのことを書きましょう。」に記入しましょう。 ・元気に挨拶してくれたとき。 ・心のこもった挨拶をしてくれたとき。	 ＜「おもてなしハンドブック」P3＞
終末	○ 先生の話を書きましょう。	◆道徳的实践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

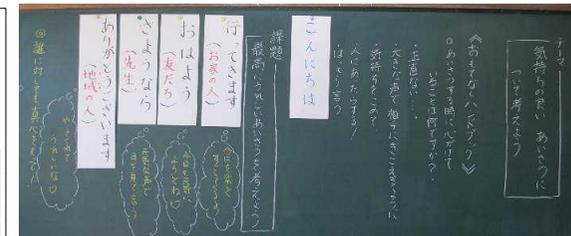
4 授業の記録

- (1) 中心発問に対する子どもの反応
 - ・笑顔で元気よく「おはよう」と言う。
 - ・相手の目を見て、今日も一日ありがとうの気持ちを込めて言う。
- (2) 振り返りでの子どもの反応
 - ・目を見て、大きな声で元気に挨拶されると気持ちいいことが分かった。
 - ・優しい気持ちを込めて、笑顔で挨拶したら相手も喜んでくれることが分かった。

5 板書、ノート等



＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞



＜思考の流れに沿ってまとめられた板書＞

実践のポイント

- 気持ちのよい挨拶についての考えを深めることができるよう、導入や展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、挨拶をしたときやされたときの気持ちを考える機会を位置付ける。
- 誰に対しても真心をもって接しようとする態度を育てることができるよう、挨拶についてのロールプレイを行い、感じたことを交流する機会を位置付ける。